

はじめに

坪井幼稚園における自己評価シートをもとに、平成25年度の実情を分析した結果を以下の通り報告する。

1. 園の教育目標について

人権尊重の教育を基調とし、豊かな心をもった心身ともに健康でたくましい幼児をめざす。

- 意欲・関心のある子ども
 - 身近な環境（自然・社会）に、積極的にかかわり、それを生活に取り入れていこうとする幼児。
 - 五感と全身を十分に使った、学びと遊びを通しての喜び、満足、充実を感じる幼児。
 - 困難に負けず、最後までやりぬく幼児。
 - 感じたこと、考えたことを表現する感性・意欲をもつ幼児。
- よく考えて行動する子ども（態度）
 - 自ら健康で安全な生活をつくりだし（自立心）、友だちと親しみ支え合って生活する（連帯感）幼児。
 - 言葉で経験を表現し、言葉で理解しようとする幼児。
 - 落ち着いて人の話を聞いたり、話したりしようとする幼児。
 - 自分で考えてものごとじっくり取り組む幼児。
- 心の豊かな子ども
 - 豊かな感性・創造性を持ち、素直に表現する幼児。
 - 友だちとの生活や遊びのなかで、自分を表現し、相手も受け入れ認め合おうとする幼児。
 - 自分らしさを発揮し、自信をもって生き生きと生活する幼児。

2. 平成26年度 自己評価取り組み目標とねらい

自己評価の取り組みによって、客観的に教師としての姿勢や園の教育目標に合った教育内容になっているのか等の見直しや自己反省を行い、1人ひとりが自らの課題を設定し教師としての質を高めるための手立てとしたい。

3. 評価項目に対する取り組み状況

評価項目	取り組み状況
1、保育の計画性	本園の教育目標に従い、子どもを真ん中に据えた教育課程を編成するとともに教育課程の説明会に全教職員を交代で出席させ、新教育要領の理解に努め教育課程の編成にあたっている。子どもの実態に合わせた行事の見直し等検討を重ねてきた。より正確に子どもの姿を捉えるために、記録を取る必要性がある。次年度に取り組みたい。

<p>2、保育のあり方・子どもへの対応</p>	<p>朝の登園時は、全職員が担任という考えで子どもを迎え入れ、不在の担任には報告・連絡を徹底した。また、保護者とのコミュニケーションを図ることで、信頼関係を築き、より良い関係作りに役立っている。子どもの安全については常に危機意識をもつよう心掛けている。</p> <p>担任だけでなく全職員で子どもを見守る体制づくりを行い、表情やしぐさに目を配りながら、どの子も安心して園生活が送れるよう配慮を行った。指導上配慮を必要とする子どもについては、ケース検討会を実施し、担任だけでなく、全職員で子どもの良さなどを多面的にとらえている。クラスの枠をこえた情報の共有をおこなった。職員はいつも子どものモデルとなれるよう挨拶や接し方・言葉使いなど、気を付けている。</p> <p>毎年、異年齢の交流ができるよう保育形態を工夫している。</p>
<p>3、保育者としての能力や良識・適正</p>	<p>全職員が専門家としての知識を学ぶため、平日頃から研修に取り組んでいる。専門家としての能力がより発揮できるよう、机まわりや職員室の整理整頓に引き続き取り組んでいる。組織として、報告・連絡・相談が欠けないよう声かけあっている。新任の教師については中堅の教職員・主任が主になって指導にあたっている。新任・中堅に係わらず、子どもから常に見られていることを意識し、切磋琢磨しながらお互いを尊重し合えるチームワークづくりを心掛けた。</p>
<p>4、保護者への対応</p>	<p>指導上配慮を必要とする子どもについて保護者と話す時は、誤解が起きないように直接会って話すようにしている。毎学期、クラス懇談会や個人面談をし、子どもの園での様子、家庭の様子など情報交換する。園での様子はクラス日より・園日より・“つぼいっこ”・預かり日より等で知らせ、保護者が参加できない行事については、DVDで撮影し、視聴できるようにしている。教師は、明るい笑顔と正しい日本語及び敬語を用い、保護者の気持ちに寄り添うことで信頼を得られるよう努力している。学期に1回子育て相談（希望者）をおこなった。</p>
<p>5、地域の自然や社会との関わり</p>	<p>地域のふれあい農園での種植えや収穫・木下邸での畑作りや筍掘り・地域の行事への参加など、一年をとおして地域の方々のふれあいができた。週一回、園外保育に出かけながら、交通安全への意識を高め、季節の変化に気付くと同時に季節の自然に親しみながら工夫して遊べた。子どもが大好きな場所はプリント等で紹介した。小学校との連携では、授業参観に出席し、意見交換を行ったが、園児と小学生との交流は年長児が主である。就園前の親子への支援については、週2回園庭を解放し親子登園を行なった。以前から要望が強かったので、参加者も多く喜んでいただけた。</p>
<p>6、研修と研究</p>	<p>研修会や研究会に参加し学んだことを資料にまとめ、職員会議などにおいて報告し合い、共有化を図っている。</p> <p>ケース検討会を学期に1回のペースで実施し、人との関わり方</p>

	<p>などに困り感を持った園児やその保護者への支援に役立った。一人でも多くの園児を対象にケース検討会を行うために、子ども理解シートの様式や記録の取り方等を見直した。月の会議に子ども理解シートを提出するようにし、事例を多く取り上げる工夫をおこなったが、共通理解にまでは至らなかった。次年度への課題である。</p>
7、教育内容	<p>幼稚園の教育目標に従い、教育課程を編成・実施している。子どもの発達や実態に応じた内容の見直しを行なった。教職員全員で一人ひとりの子どもを育てるという考えで、小さな出来事も報告・連絡・相談しながら担任以外の助言にも耳を傾けるよう心掛けた。会議を効率よく進める為の時間設定や確認の徹底に努めた。</p>
8、地域の幼児教育センターとしての役割	<p>園の教育方針や取組みを情報発信するため、毎月のホームページ記載の重要性を認識し、更新に努めた。学期毎に保護者対象の相談会を実施し、専門家による助言を貰えたことは、保護者の安心に繋がった。相談会を行うことで園と専門機関とのつながりも出来ている。未就園児保育体験により保護者の悩みや相談に応えた。</p>
9、安全管理	<p>不審者情報が携帯電話に入るようにしたり、不審者の侵入防止の為、門扉に鍵をかけている。危機管理マニュアルを作成し、職員に徹底している。出入りの多い時間帯は、職員が門に立つようにした。また、園児の教育として、交通安全教育・水難事故教育・火災・地震訓練等を実施した。防犯訓練は年長児対象のCAP講習会と全園児対象のビデオ鑑賞をおこなった。地震対策が問題になるなか、本園の防災対策は、未解決の部分が多く残されている。それでも、「もしも」に備えて園児の安全を確保できるよう、出来る限りの対策を考えているが、心配である。早急の対策を要望したい。</p>
10、財務管理	<p>公認会計士より適正に処理されているとの報告を受けている。</p>

4. 総合的な評価結果

自己評価を実施することで、教職員が自分の保育を見直す機会となった。常に自分の指導法や教育内容を見直し反省を行うことが成長に繋がるので、自己評価表が更に生かされるよう取り組んでいきたい。また、意見交換をおこない、考えの違いを理解し合える場を設けた。環境面では安全への配慮を一番に考え、遊具の点検・動物の衛生管理・害虫駆除等行なった。また、園舎は古いが掃除を丁寧に行い、季節の花や遊びが広がる草花を植えることで温かみのある環境整備を心掛けた。子育て支援として預かり保育も行っている。テレビやビデオではなく、少ない人数、縦割りのなかで、十分に遊びの時間を保障しながらゆっくりと過ごせるよう、職員の共通理解を図っている。

施設面では2歳児保育を行う必要性を実感し、数年前より検討を重ねている。保護者の要望に応えるために、園庭を解放する形式で、2歳児の親子登園を行なった。週2回ではあるが、園庭を解放することで保護者間の仲間作りに役立つなど、一定の成果が得られた。

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
情報公開の方法	ホームページの充実（教育内容の広報など）。 学校関係者評価委員会の組織作り。
自己点検、自己評価	園内、園外研修の充実・自己評価の意義徹底・心身の健康保持

6. 学校関係者評価委員会の意見

本園は学校関係者評価委員会を設けていないため意見は聞けなかった。